

# 本部だより

●第6号



マーシャル方面遺族会



第39回 マーシャル方面遺族会慰霊祭（平成14年3月31日靖国神社）

## 平成14年度 慰霊祭 総会 直会

今年の慰霊祭は、九段会館の予約の都合もありまして、例年より一週間以上も早い三月三十一日（日）に決定しております。

折角の慰霊祭に靖国神社の桜の開花が遅れてはと心配致しましたが、結果は皆様もご存じのように全国的な暖かさで、当日の桜は見頃を大幅に過ぎておりました。

今年は近くの日本武道館において行われる大学の入学式でこったがえすこともなく、当日は慰霊祭に相応しく落ち着いた雰囲気でした。

慰霊祭に参加された皆様は、境内に落ちた桜の絨毯を踏みながら参集所前に用意した受付に進まれました。

受付での出席確認後、一旦参集所内で昇殿参拝に関する説明が行われ、揃って御手洗所を経て拝殿に向かいました。今年はマーシャル方面遺族会員であることが一目で分かるワッペンを全員に付けて戴きました。

まず、拜殿に臨みお祓いを受けた後、本殿に上がります。本来なら拜殿、本殿の床は痺れるような冷たさですが、床暖房が施されており、椅子も十分に用意されておりました。

本殿では神官による祝詞奏上、黒川誠会長による祭文奏上の後、代表者による玉串奉奠が行われ、黙禱の後無事慰霊祭は終了致しました。

■慰霊祭参列者芳名

今年の慰霊祭出席者は、大給湛子おぎょうまきこ相談役以下、百十九名の皆様でした。

●敬称略・順不同（）は玉串奉奠者

青森県 須藤明子 岩手県 佐藤享三  
秋田県 打矢和子 打矢金三 福島県 富田ミツ 富田キミ 鈴木ヨシエ 根本さとみ 茨城県 大部美智子 神永栄子 鈴木多賀雄 栃木県 猪瀬ナカ 猪瀬康夫 菊池彦亘 群馬県 日向野キク 埼玉県 天野好子 井沢なを

小野博孝 小野トキ 小田原利子 片桐覚治 北原ひで 桜井かね 鎌田淳 小野塚君子 佐藤知子 柴田貞子 鈴木裕子 高林芳夫 服部陽一 藤田羊一 (山下みつ) 松本キヨ子 菅かつ子 千葉県 泉水堯恵 相川孝夫 前田ふじ 宮野せつ 石川きみ 渡辺陽子 (岩佐とみ) 小川清 腰川妙子 芳賀タツエ 高橋淳子 菅沼昇 宮本博 宮本三枝 東京都 会田くに 青木利一 荒木常子 石川勲 石谷典夫 内海静枝 (遠藤安男) 黒川誠 黒川直吉 小島八重子 小林法子 佐竹エス 斉藤芙美 (鈴木つな子) 鈴木やよひ 田島昭男 間々田正史 嶺井倭文子 石塚文子 大山美穂子 谷梯初江 高橋鎮夫 佃喜美 (中村順子) 布川慶一 沼山正英 馬場信子 晝間楽平 晝間志津子 星野綾子 西田恒子 森田穰二 山口裕子 山口良二 浜田つき子 若狭久男 若狭幸子 松尾正輝 神奈川県 能勢澄子

■定期総会

会場を九段会館「あかつき・ありあけの間」に移して十二時三十分より定期総会を開催致しました。

一、式次第

①開会の辞 草場寛

②会長挨拶・会務報告 黒川誠会長

現地慰霊は同時多発テロにより中止となるが、今年は再開の予定。晝間

志津子氏が会計担当役員に就任。

③ 会計報告 晝間楽平副会長

黒川新会長となって三期目、会費な  
して心配したが、会員の皆様のご寄  
付で順調に推移できた(十頁参照)。

④ 永代神楽祭申し込みについて 会長  
靖国神社への申し込みを説明。出席  
者の賛同を得る。申し込み時期、金  
額は役員会にて決定する。

⑤ 国内慰霊、現地慰霊報告

◆ 国内慰霊について 荒木常子

① 全国戦没者追悼式  
平成十四年度全国戦没者追悼式が今  
年も八月十五日に東京武道館で行われ  
ます。

これは各地ごとに参列申し込みとな  
っております。従って当会では東京在  
住の方のみの受付となり、同席におい  
て参加希望者の申し出を受け付けまし  
た。

② 東京都南方地域戦没者追悼式参列者  
遺族団募集

今年も十月末に沖縄方面の慰霊が計  
画されておりますので、ご希望の方は  
左記の内容をご確認の上、お申し込み  
下さい。

期日 平成十四年十月二十四日(木)  
〜二十七日(日)三泊四日 日本航空  
利用

二十四日 ロワジールホテルオキナワ  
泊

二十五日・二十六日 ホテル日航八重  
山泊

募集人員 八十名

費用 十一万五千元

ただし、都内在住で戦没者の父母、  
妻、子、実兄弟姉妹に限り一柱に付き  
一名には四十五名まで三万円の補助金  
が交付される予定です。

申し込み 東京都遺族連合会まで。

締め切り 平成十四年九月十日(火)

までに申込金一万円を添えてお申し込

み下さい。

ご希望の方には申込用紙(旅行日程  
記載)をお送りしますので、本会本部  
03・3783・8382にお申し出  
下さい。

なお、十月上旬に説明会があります  
ので、その折り残額をご持参下さい。

◆ 現地慰霊について 高林芳夫

① 本会による現地慰霊を次の通り実施  
します。

実施日時 平成十四年十一月初旬を予

定

訪問する島 クエゼリン／ルオット

② 日本遺族会が国から委託・補助を受  
けて実施している「戦没者遺児による  
慰霊友好親善事業」の平成十四年度の  
事業計画が固まり、参加者を募集。

巡拝地域 マーシャル諸島(クエゼリ

ン／マロエラップ／マジユロ／ウオツ

ゼ／ルオット／ギルバート諸島【マキ

ン／タラワ)

人員 二班三十名

実施期間 平成十五年一月十二日(日)

十九日(日)七泊八日

締め切り日 九月十五日

応募資格 実施地域(周辺公海上を含む)で父等を亡くした戦没者の遺児で、

過去に政府主催の戦跡慰霊巡拝に参加

したことのない方に限る。

参加費 十万円

申し込み方法

在住する各都道府県遺族会へ。

日本遺族会の電話

(03・3261・5521)

遺児の方は是非ご参加されることをお

勧めします。

■直会(なおりい)

定期総会が終了後、同室に配膳して

直会を行いました。参加者五十六名は、

石谷典夫役員による日本舞踊(荒城の

月他)などを楽しみ、終始和やかに歓談が続ぎ、午後三時にお開きとなりました。

永代神楽祭の申し込み

定期総会にて右記議題を提出、主旨

の説明をいたしましたところ、全員一致で

可決されました。ご存じの通り、永代

神楽祭は、仏教の永代供養と同じです。

今後、靖国神社が存続する限り三万五

千余柱の命日祭には永代にわたり毎年

奉慰顕彰を斉行されます。これにより

将来本会で慰霊祭ができなくなりまし

ても慰霊の灯火は絶えることなくマー

シャル方面遺族会の名称と共に悠久に

伝え続けることが約束されます。

一、申し込み名 マーシャル方面遺族会

二、マーシャル諸島、ギルバート諸島

周辺の島々で戦没された将兵、秋山門

造命以下三万五千余柱の英霊。

三、命日祭 毎年七月十五日(みたま祭)

四、申し込み金 三百万円。

平成十五年度

慰霊祭・総会・直会

毎年開催されております慰霊

祭後の定期総会、直会の会場

は九段会館まで移動をやむな

くされておりましたが、来年

度からは靖国神社内の靖国会

館の使用が可能になりました

ので早速申し込みを行いました

た。開催日は四月五日(土)

です。

会場は今年記念撮影をした後

ろの建物です。移動がとて

も便利になりました。田安の

間と玉垣の間で正午より三時

を予定。

## クエゼリン島慰霊碑建立のいきさつ

◆クエゼリン島、ルオット島、ブラウン島に対する遺骨収集  
現地慰霊、建碑について（再録・その一）

●クエゼリン島に建立された忠魂慰霊碑は、私たち遺族にとっては、肉親を偲ぶかけがえない碑であります。その建立に至る事情などを「環礁」で再読する機会がありました。もう一度当時に思いを致してはと、思い、碑の建立に関わるいくつかの記事を次に再録しました。（建立年月日昭和四十三年十二月一日竣工）

る通り、見出しの三つの項目は是非とも実現したい最も大きな目的であります。昨年九月八日（昭39）本会篤志家のご出席を願ひ、本会の役員及び航空会社社員を加え二十名が集まってこの具体策を研究討議しました。

れ長時間お目にかかり、本会の念願しているところを陳べて厚生大臣へ陳情願出の趣、是非とも達成叶うようお願いしました。

常には無口、遠慮がちな婦人幹部の方もこの日ばかりは心底から心境を訴えられました。その熱は当然聞かれた立場の方々の胸を打ち、なしうる限りの努力をする旨、お答えをいただきました。我々の陳情というのは次の通りであります。

太平洋戦争中、昭和十九年二月玉砕の已むなきに至ったクエゼリン島、ルオット島及びブラウン島については戦後全く未処理のまま放置され今日に至りましたが、遺族としてはこのまま放置を つづけることは忍び得ませんので次に認める理由によって、さらにそのあとに述べる要望を是非達成されるよう御願いたしますと口火を切りました。

文・常任幹事（当時）

（環礁一号・昭40・1）

本会は、その会則にも明記されてい

その日、古賀副会長はじめ常任幹事及び幹事、監事十二名が厚生省に出頭し、村岡援護局業務第二課長のご案内により板垣援護局長、鈴木援護局長終わりに徳永厚生省政務次官にそれぞ

次に、昭和二十九年一月、政府派遣団が南方八島に派遣され、遺骨収集送

還、慰霊及び建碑の行事が行われたが、この派遣団に関する交渉中、マーシャル諸島、ギルバート諸島における行事は米国側の了解を得るに至らなかったという理由によって除外され、以来今日まで遺族会は是非とも早急にこの行事を行われないというのが理由であります。

そこで要望の第一は、まず政府において至急米国側の了解を取り付け、政府派遣団を派遣し、国としてこれら残された諸島に対する遺骨収集、送還、慰霊及び建碑の行事を執り行っていたきたいということを述べました。

第二は万が一にも政府派遣団の派遣がさしあたり実現困難あるいはその時期未定等の場合、本会としては遺族の拠金或いは個人の自弁によってもこの目的を達成したい。

この場合、次のスケジュールを考えているので、政府においては米国側にこの計画の了解を取り付ける等、便宜

を供せられたいという申し入れをしました。

そのスケジュールというのは次の通りです。

- 一、実施時期 昭和四十年三月中旬
- 二、派遣員 五名
- 三、行動の概要

第一日 東京発マニラ経由グアム島着  
(民間航空)

第二日 グアム島発、トラック島、ポナペ島經由クエゼリン島着(米軍用機による)午後一時。遺骨収集作業。建碑。慰霊行事旅行。

第三日 ルオット島、ブラウン島慰霊行事(米軍舟艇航空機を期待する)。

第四日 クエゼリン島発グアム島着。

第五日 グアム島発東京帰着。

備考 第二日または第三日夕刻、米駐留部隊のホールを借用し、二十年祭行事の八ミリ映画テープ、オリンピック映画により英霊をお慰めし、かつ現在在島の人々に鑑賞させる用意があります。

す。

四、経費 一名五十万円と予想する。という内容であります。

その後数回にわたり外務省アメリカ局に出向き、便宜供与方の依頼を行い、一方厚生省援護局長からも外務省アメリカ局に対し、関係国に対するこの陳情実現の斡旋を申し入れ、外務省また米国外務省に連絡をつづけて下さいました。

さらに十二月二日石橋湛山顧問が開会中の国会に神田厚生大臣を訪ね、全く同じ趣旨の希望を申し入れられ、大臣はこれを外務大臣に話される場面もありました。

クエゼリンが現在重要な米軍の基地であり、ピキニに近い危険地域だけに簡単には行かないと思います。しかし米国外務省もこの陳情はよく了解し、十二月中旬本国にその指令を仰ぎ、回答を待っているという状況であります。一方昨年(昭和39)の二十年祭の

報告やら会計報告、また二月六日の計画など「環礁第一号」に載せて遅くも十二月一日には発送する予定にしております。しかし、現地慰霊についての計画が前記のように長引きましたので、米本国の回答を待たず発送することに決めました。

そこで五名という派遣団の選定ですが、御意見を至急お寄せいただきたいと思ひます。五十万円負担しても行くという会員があれば幸せであります。が、もし五名に満たないときどうしたらよいか、ひろく御意見を伺いたしたいと思います。会としても行つて下さる方はできる限りの御援助もしたいと思ひます。そのため全会員からなし得る限りの寄付金を募る必要もあろうかとも思ひます。

米国側の意向も判らないうちに早すぎたご相談かもしれません。OKが来れば早速やらなければなりません。至急皆さんの忌憚ない御意見をお寄せ下

さいますよう御願ひします。

行つて下さる方がない場合、また本部一任の御意見が多い場合、本部には一案がありますので、何としても実現したいと念じております。

#### クエゼリン島に建碑許可

#### 実現の経緯

(環礁六号・昭42・6)

クエゼリン島に忠魂慰霊碑の碑を建て、殉国の霊が永えに安らかに眠る聖地としたことは本会が発足当初からの念願であった。

マーシャル諸島、とりわけクエゼリン環礁は、米軍のミサイル実験発射場として同国の重要基地となっており、外国人はもちろん米国人でも軍の特別許可がないと入ることもできない制限地域 (Restricted area) となった。

日本政府としての遺骨収集や慰霊の行事が未済のため、海上自衛隊の練習

艦隊の米国航路或いは豪州航路の際寄港するよう希望したが、この理由で承認を得られなかったと仄聞している。

本会も御承知の通り、我々が行けるよう外務省、厚生省に斡旋方を嘆願したが、結局我々の期待する回答は得られなかった。また、この間ある遺族の方から「アメリカの領土乃至は国連の信託統治領の中に敗北した日本軍の墓を建てさせる訳がないではないか。寝言のようなことを書いた環礁など見たくない。今後ご送付無きようお断りする」といった手紙を受け取ったこともある。

一方では、オックスフォードの元米国海軍士官ケース・エス・ウイリアムス氏等からは、「負けようがまたそこが今米軍の重要基地だろうがあるまいが、死を賭して母国を護った殉国の士の戦死したところではないか。

そこに参拝に行き、そこに碑を建てるのに何の遠慮があるものですか。日



クエゼリン実験地区司令官  
フランク・C・ヒーラー陸軍大佐

本政府がやらないなら直接クエゼリンの米軍司令官に要請なさい。宛先はこれこれです。私からも同司令官宛貴会の真意を伝えて実現するよう努力します」と励ましの書簡を得た。どう考えでもウイリアムス氏の理屈は筋が通る。役員一同はこの国境を越え恩しゅうを超えた助言を多とし不可能ではないという信念のもとに本会独自で解決に向かつて邁進することとなった。

昨年（昭41）九月十七日クエゼリンから「この日本人墓地は巨大なレーダー装置に囲まれた、そして付近には次々に重要な施設が増設されていま

す。従って考えられる近い将来、クエゼリンに外国人が出入することは厳しく制限されています。

折角の慰霊碑ですから同じマーシャル諸島中誰でも出入りできる、またマーシャルの政庁のあるマジュロに建立されては如何ですか。

当司令部から非公式にマジュロの政庁に意向を打診したところ、歓迎の旨内諾を得ています」という手紙を受けました。

マジュロには事実政庁があり、いずれはハワイとの定期航空が開通するとも聞いている。

従ってマジュロに碑を建てればいつかはこの碑を参拝に我々多数の会員が訪問することもできる。本部並びに役員会でどちらにしたらよいか迷った。

このため名誉会長、会長、顧問の決裁を仰ぐこととした。いずれも会員大部の了承であるなら、少なくとも役員会の結論ならばそれでもよろしいが、

個人としてはマジュロに建てても意義がないのではないか。参拝の能否よりも戦争中マーシャル、ギルバート全域の司令部のあったところ、かつ最も多数の戦死者を生じた島、しかも現在日本人墓地をして司令官以下敬けんな祭祀を行っている事実のあるところ。こんなことを考えると今更他に移すことは望ましいことではないのではないかという意見が強かった。

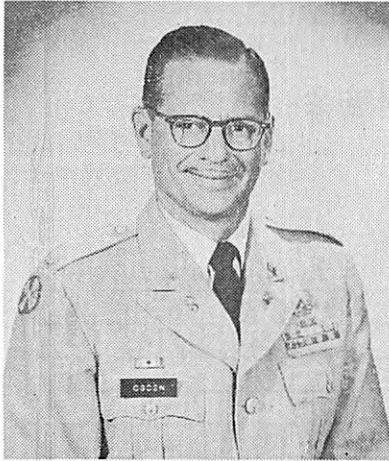
この結果、折り返しクエゼリンの司令宛、

一、碑は参拝ができるできないというよりも英霊が永久に静かに眠る聖所としたい。従って最も多数の日本人の血潮を染めたクエゼリンとしたい。

二、デザイン、大きさ等貴方で好ましくない点があるなら、それはご迷惑であるから如何様にも改める用意がある。忌憚なくいつてもらいたい。

三、碑は貴答を待って日本で完成し、これを船で貴島に送り、本会会長から





クエゼリン実験地区主席将校  
リードレー・H・オグデン陸軍中佐

貴司令官に贈呈の形をとる。  
と申し入れた。

これに対する回答は十一月二十四日（発信は十一月十四日）本部にきた。その内容は環礁五号に全文の訳を載せたが、その中で「さて、貴会のご希望に対してもっと大切な建碑のことを申し上げなくてはなりません。私としては今日から三十日から六十日の間に御返事が差し上げられればよいかと念じております。何しろ米本土はここから七千五百哩も隔たっており、そこで決めることです。この遠方での事務的処理には相当日時を要すること、お解

りいただけると思います」。

文中三十日といいい六十日と書き、また航空便の進歩した今日、七千五百哩と何れも大袈裟ない方をしたのは親しきももってユーモアない方をしたのだと思います。

その頃、日本ではグアム島に太平洋地域四十六万の戦没者の表忠塔をグアムに建立する話がありました。私たちとすれば結構なことですが、本当にできるのか、それならば本会の希望も早く受領できるのにとやや焦りました。それが現地派遣員を励ます集いの一週間前三月二十四日にクエゼリンから電報が来しました。

多少長くなりますが、本会としてはワシントンからの公式の承認の電報です。ので全文を挙げます。オグデン中佐からの会の浮田宛、横須賀米基地の電報です。

訳文

一、ただ今本国の上級司令部からあな

たが希望のクエゼリンの日本人墓地に、日本で作り輸送して下さるなら高さ、幅一・二メートル以下、厚さ0・九二メートル以内である限り承認します。

二、もう一つは、近い将来参拝のため日本人また外のあらゆる外国人もクエゼリンにくることができないこと、徹底するよう指令を受けた。  
三、あなた及び遺族会員の御幸福を祈ります。

かくてクエゼリン島に希望の通り墓碑が建てられることとなりました。米国占領下のしかも軍事上最重要な基地となっているクエゼリン本島に敗戦国軍人軍属の慰霊碑が建てられることになったのは偏に会員の御熱意と米国の人たちの人間的なご尽力のおかげであります。

皆様とともに関係各位に対し、心から感謝の意を表したいと思います。

（次号につづく）

## 平成13年度 会計報告書

## マーシャル方面遺族会

自 平成13年01月01日

至 平成13年12月31日

1) 一般会計収支計算書  
収入の部

科目	金額
前期繰越	2,810,369
寄付金	1,471,534
受取利息	17,093
雑収入	18,500
小計	1,507,127
計	4,317,496

## 支出の部

科目	金額
慰霊費	255,747
広報費	239,270
通信費	92,198
事務用品費	3,493
会議費	179,692
振替手数料	24,160
公租公課	3,141
雑費	28,480
小計	826,181
次期繰越	3,491,315
合計	4,317,496

## 2) 一般会計財産目録

平成13年12月31日現在

資産の部		負債の部	
科目	金額	科目	金額
現金	39,395		
普通預金	1,410,329		
郵便振替	2,041,591		
		次期繰越	3,491,315
合計	3,491,315	合計	3,491,315

## 3) 特別会計

収入の部		支出の部	
科目	金額	科目	金額
前期より繰越	9,000,000		
		次期繰越	9,000,000
合計	9,000,000	合計	9,000,000

注) 定期預金及び定額貯金として保管

会 長 黒川 誠

会計担当 晝間楽平

## 寄付者芳名

平成十四年一月二日から四月六日まで、次の会員・会友の皆様から慰霊奉賛のための浄財をご寄付下さいました。大給湛子様以下、二百五十七名で、金額の合計は、百四十五万四千九百四十三円でした。ここに厚く御礼申し上げます。今後共本会の存続のため、何分よろしくご協賛賜りますようお願い申し上げます。

●敬称略・順不同

北海道 岩川あい 穂刈直 青森県  
小笠原一雄 下川与三郎 田中正治  
塚原ハナ 岩手県 小杉サヨ 菅原真  
起 高橋寛治 佐藤享三 宮城県 相  
馬ツキ 新田富美子 平形いせこ 松  
木孝子 佐藤勉 秋田県 打矢和子  
近藤キクエ 山形県 大場広弥 福島  
県 楠宗親 鈴木ヨシエ 富田ミツ  
古市光男 三浦一郎 茨城県 倉橋た

- |                    |                    |                    |
|--------------------|--------------------|--------------------|
| 武 鈴木つな子 鈴木やよひ 谷梯初  | 武 鈴木つな子 鈴木やよひ 谷梯初  | 武 鈴木つな子 鈴木やよひ 谷梯初  |
| 夫 岩浪邦江 内海静枝 遠藤安男   | 夫 岩浪邦江 内海静枝 遠藤安男   | 夫 岩浪邦江 内海静枝 遠藤安男   |
| 大山美穂子 大高吉郎 大野清子 加  | 大山美穂子 大高吉郎 大野清子 加  | 大山美穂子 大高吉郎 大野清子 加  |
| 藤照 黒川誠 小泉文江 小島八重子  | 藤照 黒川誠 小泉文江 小島八重子  | 藤照 黒川誠 小泉文江 小島八重子  |
| 佐竹エス 佐藤宗丕 斉藤芙美 清水  | 佐竹エス 佐藤宗丕 斉藤芙美 清水  | 佐竹エス 佐藤宗丕 斉藤芙美 清水  |
| み 柴沢宏 北條晃 堀江誠一 大熊  | み 柴沢宏 北條晃 堀江誠一 大熊  | み 柴沢宏 北條晃 堀江誠一 大熊  |
| さと子 栃木県 猪瀬ナカ 菊池彦亘  | さと子 栃木県 猪瀬ナカ 菊池彦亘  | さと子 栃木県 猪瀬ナカ 菊池彦亘  |
| 田名綱武夫 高橋克麿 吉川芳蔵 群  | 田名綱武夫 高橋克麿 吉川芳蔵 群  | 田名綱武夫 高橋克麿 吉川芳蔵 群  |
| 馬県 井野福次 清水宏一 珍田光子  | 馬県 井野福次 清水宏一 珍田光子  | 馬県 井野福次 清水宏一 珍田光子  |
| 日向野キク 森清美 埼玉県 天野好  | 日向野キク 森清美 埼玉県 天野好  | 日向野キク 森清美 埼玉県 天野好  |
| 子 井沢なを 宇田川ひさ 小田原利子 | 子 井沢なを 宇田川ひさ 小田原利子 | 子 井沢なを 宇田川ひさ 小田原利子 |
| 小野博孝 北原ひで子 桜井かね 佐  | 小野博孝 北原ひで子 桜井かね 佐  | 小野博孝 北原ひで子 桜井かね 佐  |
| 藤知子 柴田貞子 鈴木裕子 高林芳  | 藤知子 柴田貞子 鈴木裕子 高林芳  | 藤知子 柴田貞子 鈴木裕子 高林芳  |
| 夫 千田恒子 西勝彰夫 野田雅子   | 夫 千田恒子 西勝彰夫 野田雅子   | 夫 千田恒子 西勝彰夫 野田雅子   |
| 服部陽一 山下みつ 松本キヨ子 千  | 服部陽一 山下みつ 松本キヨ子 千  | 服部陽一 山下みつ 松本キヨ子 千  |
| 葉県 相川孝夫 石川きみ 泉水堯恵  | 葉県 相川孝夫 石川きみ 泉水堯恵  | 葉県 相川孝夫 石川きみ 泉水堯恵  |
| 岩佐とみ 大石タケ 小川清 川名博  | 岩佐とみ 大石タケ 小川清 川名博  | 岩佐とみ 大石タケ 小川清 川名博  |
| 夫 腰川妙子 高山満喜男 津久井艶  | 夫 腰川妙子 高山満喜男 津久井艶  | 夫 腰川妙子 高山満喜男 津久井艶  |
| 子 豊谷美恵子 菅沼昇 宮本博 芳  | 子 豊谷美恵子 菅沼昇 宮本博 芳  | 子 豊谷美恵子 菅沼昇 宮本博 芳  |
| 賀タツエ 広原実 宮崎実 谷沢英子  | 賀タツエ 広原実 宮崎実 谷沢英子  | 賀タツエ 広原実 宮崎実 谷沢英子  |
| 米田正子 吉田操 東京都 青木利一  | 米田正子 吉田操 東京都 青木利一  | 米田正子 吉田操 東京都 青木利一  |
| 荒木常子 飯島祐宣 石川勲 石谷典  | 荒木常子 飯島祐宣 石川勲 石谷典  | 荒木常子 飯島祐宣 石川勲 石谷典  |
| 夫 岩浪邦江 内海静枝 遠藤安男   | 夫 岩浪邦江 内海静枝 遠藤安男   | 夫 岩浪邦江 内海静枝 遠藤安男   |
| 大山美穂子 大高吉郎 大野清子 加  | 大山美穂子 大高吉郎 大野清子 加  | 大山美穂子 大高吉郎 大野清子 加  |
| 藤照 黒川誠 小泉文江 小島八重子  | 藤照 黒川誠 小泉文江 小島八重子  | 藤照 黒川誠 小泉文江 小島八重子  |
| 佐竹エス 佐藤宗丕 斉藤芙美 清水  | 佐竹エス 佐藤宗丕 斉藤芙美 清水  | 佐竹エス 佐藤宗丕 斉藤芙美 清水  |
| 江 関谷シモ 田中猛 田島智恵子   | 江 関谷シモ 田中猛 田島智恵子   | 江 関谷シモ 田中猛 田島智恵子   |
| 高橋鎮夫 佃喜美 中村順子 西沢和  | 高橋鎮夫 佃喜美 中村順子 西沢和  | 高橋鎮夫 佃喜美 中村順子 西沢和  |
| 子 西田恒子 布川慶一 沼山正英   | 子 西田恒子 布川慶一 沼山正英   | 子 西田恒子 布川慶一 沼山正英   |
| 蓮沼常子 長谷川智子 浜田つき子   | 蓮沼常子 長谷川智子 浜田つき子   | 蓮沼常子 長谷川智子 浜田つき子   |
| 晝間楽平 星野綾子 水野貞二 番場  | 晝間楽平 星野綾子 水野貞二 番場  | 晝間楽平 星野綾子 水野貞二 番場  |
| 信子 山口裕子 山森久江 六軒つる  | 信子 山口裕子 山森久江 六軒つる  | 信子 山口裕子 山森久江 六軒つる  |
| 子 神奈川県 赤坂スズ 石渡綾子   | 子 神奈川県 赤坂スズ 石渡綾子   | 子 神奈川県 赤坂スズ 石渡綾子   |
| 岩瀬三樹三郎 岩田とし子 上田文子  | 岩瀬三樹三郎 岩田とし子 上田文子  | 岩瀬三樹三郎 岩田とし子 上田文子  |
| 榎本益明 大石純一 岡野正文 金子  | 榎本益明 大石純一 岡野正文 金子  | 榎本益明 大石純一 岡野正文 金子  |
| 武晴 川名茂子 熊沢静子 佐藤登志  | 武晴 川名茂子 熊沢静子 佐藤登志  | 武晴 川名茂子 熊沢静子 佐藤登志  |
| 渋谷良雄 杉田絹恵 鈴木孝輔 田中  | 渋谷良雄 杉田絹恵 鈴木孝輔 田中  | 渋谷良雄 杉田絹恵 鈴木孝輔 田中  |
| 菊枝 長塚隆夫 西森サツキ 服部純  | 菊枝 長塚隆夫 西森サツキ 服部純  | 菊枝 長塚隆夫 西森サツキ 服部純  |
| 昌 平井加代子 平井貢 森井静子   | 昌 平井加代子 平井貢 森井静子   | 昌 平井加代子 平井貢 森井静子   |
| 安威孝司 鈴木有季子 新潟県 石丸  | 安威孝司 鈴木有季子 新潟県 石丸  | 安威孝司 鈴木有季子 新潟県 石丸  |
| 進 近藤茂 渋谷セキノ 高橋梅子   | 進 近藤茂 渋谷セキノ 高橋梅子   | 進 近藤茂 渋谷セキノ 高橋梅子   |
| 高林セキ 藤田ヨリ 山田正三 山本  | 高林セキ 藤田ヨリ 山田正三 山本  | 高林セキ 藤田ヨリ 山田正三 山本  |
| チイ 富山県 池田淑子 棚橋昭二   | チイ 富山県 池田淑子 棚橋昭二   | チイ 富山県 池田淑子 棚橋昭二   |
| 廣上敏夫 広島富子 藤木義房 村梶  | 廣上敏夫 広島富子 藤木義房 村梶  | 廣上敏夫 広島富子 藤木義房 村梶  |
| 光栄 石川県 木村久子 小林ヨシ子  | 光栄 石川県 木村久子 小林ヨシ子  | 光栄 石川県 木村久子 小林ヨシ子  |
| 永井武弘 森芳子 村上一雄 福井県  | 永井武弘 森芳子 村上一雄 福井県  | 永井武弘 森芳子 村上一雄 福井県  |
| 塚田民子 山梨県 黒川正文 長野県  | 塚田民子 山梨県 黒川正文 長野県  | 塚田民子 山梨県 黒川正文 長野県  |
| 綾部はつゑ 末松乙夫 牧内長逸 油  | 綾部はつゑ 末松乙夫 牧内長逸 油  | 綾部はつゑ 末松乙夫 牧内長逸 油  |
| 井芳枝 岐阜県 島本和子 堀尾洋平  | 井芳枝 岐阜県 島本和子 堀尾洋平  | 井芳枝 岐阜県 島本和子 堀尾洋平  |
| 吉田政明 静岡県 大畑幸夫 木野政  | 吉田政明 静岡県 大畑幸夫 木野政  | 吉田政明 静岡県 大畑幸夫 木野政  |
| 雄 後藤行雄 野崎昭二 三浦久夫   | 雄 後藤行雄 野崎昭二 三浦久夫   | 雄 後藤行雄 野崎昭二 三浦久夫   |
| 服部くにゑ 愛知県 安藤昌子 岡島  | 服部くにゑ 愛知県 安藤昌子 岡島  | 服部くにゑ 愛知県 安藤昌子 岡島  |
| みね子 大見シノブ 川村正一 川越  | みね子 大見シノブ 川村正一 川越  | みね子 大見シノブ 川村正一 川越  |
| コウ 浜田芳枝 京都府 川本彦次   | コウ 浜田芳枝 京都府 川本彦次   | コウ 浜田芳枝 京都府 川本彦次   |
| 谷正文 吉見美津治 大阪府 馬場富  | 谷正文 吉見美津治 大阪府 馬場富  | 谷正文 吉見美津治 大阪府 馬場富  |
| 美子 福田音和 兵庫県 枝光剛郎   | 美子 福田音和 兵庫県 枝光剛郎   | 美子 福田音和 兵庫県 枝光剛郎   |
| 国見嘉治 奈良県 奥田義寛 山中美  | 国見嘉治 奈良県 奥田義寛 山中美  | 国見嘉治 奈良県 奥田義寛 山中美  |
| 子 和歌山県 福井栄子 鳥取県 井  | 子 和歌山県 福井栄子 鳥取県 井  | 子 和歌山県 福井栄子 鳥取県 井  |
| 上照美 島根県 伊瀬忠夫 広島県   | 上照美 島根県 伊瀬忠夫 広島県   | 上照美 島根県 伊瀬忠夫 広島県   |
| 浦手ハル 佐々木千鶴子 藤本正 米  | 浦手ハル 佐々木千鶴子 藤本正 米  | 浦手ハル 佐々木千鶴子 藤本正 米  |
| 田葉美 溝口ハナコ 山口県 道源陽  | 田葉美 溝口ハナコ 山口県 道源陽  | 田葉美 溝口ハナコ 山口県 道源陽  |
| 子 広田道男 吉永峯生 香川県 秋  | 子 広田道男 吉永峯生 香川県 秋  | 子 広田道男 吉永峯生 香川県 秋  |
| 山武 秋山百合子 石川正興 石田藤  | 山武 秋山百合子 石川正興 石田藤  | 山武 秋山百合子 石川正興 石田藤  |
| 美 富田トシ子 愛媛県 伊藤梅子   | 美 富田トシ子 愛媛県 伊藤梅子   | 美 富田トシ子 愛媛県 伊藤梅子   |
| 泉田君子 大塚喜久雄 久保田泰子   | 泉田君子 大塚喜久雄 久保田泰子   | 泉田君子 大塚喜久雄 久保田泰子   |
| 長岡俊夫 森田静子 山本峰子 高知  | 長岡俊夫 森田静子 山本峰子 高知  | 長岡俊夫 森田静子 山本峰子 高知  |
| 県 徳弘萩子 山本誠章 福岡県 青  | 県 徳弘萩子 山本誠章 福岡県 青  | 県 徳弘萩子 山本誠章 福岡県 青  |
| 山アヤ子 一ノ瀬クモエ 荻野千代子  | 山アヤ子 一ノ瀬クモエ 荻野千代子  | 山アヤ子 一ノ瀬クモエ 荻野千代子  |
| 下釜正義 平田郁子 秦サカエ 村上  | 下釜正義 平田郁子 秦サカエ 村上  | 下釜正義 平田郁子 秦サカエ 村上  |
| 清隆 吉松貞子 佐賀県 金子茂 金  | 清隆 吉松貞子 佐賀県 金子茂 金  | 清隆 吉松貞子 佐賀県 金子茂 金  |



慰霊碑裏面の文字

子庄之助 草場マキ 山田雪子 長崎  
 県 安達美加栄 板浦重雄 長谷土松  
 中野フチエ 前田フサ 森テル子 山  
 下夕エ 熊本県 植川二男 片山玲子  
 鬼海富夫 塚野ヨシ子 土田利子 右  
 山定 村上佳寿子 宮崎県 森フサエ  
 鹿児島県 揚野サツエ 野平ヨネ 東  
 キク 沖縄県 宮城幸子  
 篤志会員・会友等 稲毛三郎 尾上一  
 郎 久保未喜 佐藤敬義 吉良正義  
 郡義典 豊谷秀光 馬場直人 兵藤義  
 彦 堀口太平 山口正雄

南東から見たクエゼリン本島。上はエニープージ島。



上) クエゼリン島に掲揚された国旗。左から国連旗、マーシャル諸島共和国国旗、日の丸、星条旗。右) ルオット島慰霊碑。



●環礁・本部だより：第6号 ●発行日：平成14年8月1日 ●発行人：黒川 誠  
 ●マーシャル方面遺族会本部：〒142-0051 東京都品川区平塚 3-4-17 ●電話 03-3783-8382 ●FAX03-3783-8384  
 ●振替：東京 00100-0-93487